

新宮木造住宅 協同組合

革新的サービス

一般型

新宮から紀州熊野材の魅力を発信 伝統工法と高精度プレカットの融合で低価格化を実現

事業内容 木材のプレカットを目的とした組合 伝統工法に対応できる加工技術

1998年(平成10年)に、西は和歌山県串本町から東は三重県熊野市(東牟婁郡・南牟婁郡)までの木造住宅建設に関わる様々な業種の事業者が集まり、木材のプレカット(建築現場で用いる土台・柱・梁などを設計図に合わせて事前に加工する)事業を目的に設立された組合。組合員は、林業、製材業、建築材料卸売業、建築工事業(工務店)の事業者で構成されており、組合員同士の関係性も強く、木造住宅建築全般に関してトータルでサポートできる体制を整えている。

同組合の具体的な仕事内容としては、製材所から運び込まれる檜や杉といった紀州熊野材を住宅の設計図に基づいて加工し、建築現場に届けることが主で、木材加工のほかに、木材の卸売も行い、最近はDIY(日曜大工)を行う一般個人客への販売も行っている。

同組合の特徴としては、当地における伝統ある工法に合わせた木材の加工ができることが強みの一つとなっている。また、串本町から熊野市にかけてプレカット加工を行う業者はなく、同エリアの加工を一手に請け負っている。

補助事業 紀州熊野材の良さを活かす 魅力的な木造住宅の低価格化

同組合の営業エリアにおいて、木造住宅建設に携わる技術のある大工が減少したこともあり、木材を壁の中に封じ込めてクロスを張る住宅が主流となっている。しかし、これでは木造軸組の本来の良さである木組みが見えず、紀州熊野材の良さを活かせていないと言える。

紀州熊野材の良さを活かした木組みの見える「現し工法」で家を建てることができなければ、大手ハウスメーカーと差別化が図れず、広告宣伝力では太刀打ちできない。そのため、同組合では紀州熊野材の地産地消を進めていくためにも新たな一手を打ちたいと考えていた。

木組みを活かした伝統工法が支持されにくい理由としては、大工手間がかかり、坪単価が高くなり、結果として住宅価格が割高になってしまうことがある。ただ、これらの問題は、精度の高いプレカットを行い、大工手間を小さく

することで解決が可能である。

そこで、今回の補助事業では、高性能オペレーションシステムを導入することで、伝統工法とプレカットを融合させ、木造住宅の低価格化に挑戦した。



▲プレカットで加工された木材

新宮木造住宅 協同組合

理事長 速水 洋平
〒647-0025 新宮市あけぼの6-7
TEL: 0735-28-2033
FAX: 0735-21-2550

(業種)木材加工業
(設立)1998年5月
(資本金)10,000千円
(従業員)2人(理事長含む)

成果

木組みが見える住宅の低価格化を実現 構造計算による作業効率の向上

高性能オペレーションシステムを導入することにより、木材のプレカット工法はコンピューター制御で機械加工され、高品質で安定した加工木材を提供することが可能となった。また、従来は加工担当者の技術や加工環境が出来栄に影響を与えていたが、誰でも安定した品質で加工することができるようになった。

大工自身が現場において手作業で木材を加工することもなくなったため、工期短縮によるコストダウン効果が出ている。これにより、木組みが見える住宅であっても一般的な住宅と骨組み坪単価がさほど変わらないまで価格を下げることが成功した。当地において、住宅着工戸数は減っているが、新規のプレカット依頼は増えており、販売面でも成果が上がっている。

また、技術面では、図面をメール等の電子媒体でやり取りし、図面の構造計算までできるため、加工ミスや細かい修正の手間もほとんどなくなり、現場での作業負担も軽減できている。



▲オペレーションシステム

今後の展開

家が建つ流れの紹介でPRを推進 紀州熊野材を使った耐震ベッドなど独自製品の開発に取り組む

今後の展開については、小型モデルハウスに特化した見学ではなく、組合員のネットワークを活用してPRを進めていく。具体的には、木の「伐採」→「製材」→「プレカット」→「組み上げ」までの家が建つ流れを紹介することで、木組みの見える住宅に興味をもってもらいたいと考えている。

ただ、現状の課題としては、プレカットの依頼は増えていっているものの、大安などのお日柄に合わせて建築現場が動くために受注時期に偏りが出てしまい、対応しきれないことがある。理事長含め従業員2名の「日本一小さい」プレカット

屋であるため、マンパワーにどうしても限界はある。受注を上手く予測し、事前に対応するなどし、しっかりと受注を取り込んでいく予定だ。

また、木材の加工依頼に対応するだけでなく、自社オリジナル品の開発も進めていく。具体的には、プレカット技術を活かした紀州熊野材を使う耐震ベッドを製作したいと考えている。お客様から問い合わせをもらえるような「ここでしか買えない」製品づくりを目指し、これからは新宮の地から紀州熊野材の魅力を発信し続けていく。



▲従業員メンバー



▲耐震ベッド(イメージ)